

「飯田市次期総合計画」策定の進め方について
～ 地方創生の動きも視野に入れて ～

平成27年5月

飯田市総合政策部企画課

目 次

はじめに

- 1 前回の「次期総合計画策定に向けての考え方」から
 - (1) 大切にしたい視点（認識すべき課題と注意点）
 - (2) 次期総合計画について
 - (3) 計画の性格

- 2 次期総合計画の策定の進め方
 - (1) 「未来からの発想法」による計画策定
 - (2) 「ビジョン」を要とする計画策定
 - (3) 未来を描く「共創の場」による計画策定

- 3 策定スケジュール

- 4 地方創生に関わる「人口ビジョン」、「飯田市版総合戦略」の策定
 - (1) 人口ビジョン
 - (2) 地方版総合戦略

【日程表】

【補足資料】

各懇談会での検討の進め方のイメージ

人口減少の「地域・暮らし」への影響を考える

実現したい「地域・暮らし」の将来像を考える

「地域・暮らし」の将来像を実現する「戦略（道筋）」を考える

() 地域にある可能性について

() 「リニア」や「三遠南信自動車道」を地域の力にしていくためには
戦略に基づく実践（計画）を考える

はじめに

2008年を頂点として、日本全体が「人口減少時代」に直面しました。国立社会保障人口問題研究所の将来推計によると、飯田市においても人口減少が予測されています。

一方で、若者の意識、ライフスタイルは大きく変わりつつあり、田園回帰、二地域居住の動きもあります。そのような変化を積極的に捉え、「人口減少時代を如何に生き抜くか(そのための仕組みづくり)」という視点だけでなく、「人口流動化時代に如何に人や財を惹きつけるか(そのための魅力づくり)」という視点での戦略的な取組みも重要になると考えられます。

幸い飯田市は、リニア中央新幹線、三遠南信自動車道の開通を控え、「特殊なシナリオ」を描くことが出来る状況にあります。また飯田市では、これまで環境政策、グリーンツーリズム、航空宇宙産業をはじめとする産業クラスター形成など、全国のモデルとなる取組みを実践してきました。さらにりんご並木やムトスに象徴される自主自立の精神や地域自治組織、公民館など地域自らが考え行動するコミュニティが根付いていることに加え、学輪 IIDA など、地域外の知見を地域へ呼び込み、新しい「知」を飯田で創り、発信できる仕組みづくりも進みつつあります。

このような状況の中、飯田市では平成 28 年度末までに「次期総合計画」を、また平成 27 年度末までに地方創生に向けた「人口ビジョンと飯田市版総合戦略」の策定を進めます。飯田市が真の地方創生を成し遂げ、持続可能な地域経営を実現していくためには、リニア中央新幹線、三遠南信自動車道の開通によるプラス効果を最大限に活かせる「戦略的な地域づくり」に地域が総力を挙げて取り組むことが課題であり、そのための計画策定においては、計画づくりの過程を重視した取組みにより「みんなで地域を創っていくという意識」を共有し、市民、事業者の皆さんをはじめ「多様な主体による協働と共創」を推進していくことが重要となります。

具体的には、人口減少が地域に与える影響、人口流動化時代における飯田市の可能性を分析、認識し、「人口減少時代においても、どのような暮らしをしたいのか」、「人口流動化時代において、飯田市の「高み」(魅力)を如何にして創るか。次世代のために、どのような地域を繋ぎたいのか」といった視点から将来の地域、暮らしをデザインする「未来ビジョン」を大目標として掲げ、未来ビジョンの実現に必要な目標人口を定め、目標人口へ向けて打つべき方策(戦略・計画)は何かを考える「未来からの発想法」による策定が効果的となります。また戦略・計画づくりは、人や産業を惹きつける個性(磁石)づくりであり、借り物ではない地域固有のもの、地域外からも共感を得るものでなければリニアがもたらす大交流時代においては埋没してしまいます。そのため「地域」「現場」での検討に起点を置き、そこでの発想や提案を地域全体で共有するとともに、外部からの知見や広域的な連携を総合することが重要となります。今回の計画策定は、こうした過程を通して地域の事業構想力を高め、地域が総力を挙げて人口減少時代を乗り越えていく「行動計画づくり」と言えます。

これまでも飯田市は、地区での基本構想の策定や魅力ある地域づくりの実践、更には経済自立度向上や人材サイクルの構築に向けた取組、子育てしやすい環境づくりなどに多くの市民が関わってきました。今回の策定では、これまでの取組みの成果や経験、地域や現場の状況を踏まえながら柔軟かつ効果的に進めていきたいと考えています。

1 前回の「次期総合計画策定に向けての考え方」から

(1) 大切にしたい視点（認識すべき課題と注意点）

飯田市では、次に掲げることが大切にしたい視点と捉え、平成28年度末までに次期総合計画を策定することとしました。

- ア 人口減少時代への本格的な対応
- イ リニア中央新幹線、三遠南信自動車道の開通を見据えた戦略的な取組の強化
- ウ ムトスや公民館などに代表される「自主自立の精神」の継承、分権型社会への対応
- エ 大震災をはじめとする災害や社会経済情勢への柔軟な対応

(2) 次期総合計画について

- ア 基本構想とその下に位置づく計画群を一体として「総合計画」と表現します。
- イ 基本構想の期間は、30年先を見据えた中の12年とします。

(3) 計画の性格

- ア 人口減少時代に求められる計画
次期総合計画は、社会・経済構造の変化の大きな時代における飯田市の未来を「各世代が共感できる未来づくり」と「次世代に責任が持てる現在づくり」の視点を出発点に、多様な主体の皆さんと共に飯田の未来を創るための大きな方向性を示すものとして位置付けます。
- イ 多様な主体との協働・共創の取組
構想に基づく事業推進（計画推進）においては、その方向性や戦略あるいは課題を基本構想から導き出し、特に個別計画等における具体的な事業推進において市民・事業者等の多様な主体の皆さんとの協働・共創の取組をさらに発展させ、市政運営を図る仕組とします。

2 次期総合計画の策定の進め方

次期総合計画の策定においては、まず大目標である、市民の思いを込めた実現したい「暮らし」や「地域」の将来像を「未来ビジョン」として検討し、その暮らしを実現するために必要な目標人口を掲げ、ビジョンへ向けて打つべき手立てとなる基本的方向（戦略）を定め、その基本的方向（戦略）を踏まえた計画を検討する「未来からの発想法」により策定します。

(1) 「未来からの発想法」による計画策定

「未来からの発想法」では、現在の「場」を身に置きながら、「未来＝将来」の「場」を考え、それを現在の「場」に引き戻して、私たちが今何をすべきかを話し合います。

具体的には、一人ひとりが創造的に「各世代が共感できる未来づくり」と「次世代に責任が持てる現在づくり」を発想できるよう次の手順で行います。

- ア 現状を把握したうえで、現在の延長線上にある将来を予測してみる
- イ ビジョン（到達点）をつくる
- ウ ビジョン（到達点）と現在の差を考え、ビジョン（到達点）までの基本的方向（戦略）を定める
- エ 基本的方向(戦略)を行動に移す計画を立てる

(2) 「ビジョン」を要とする計画策定

地域は、多様な主体の活動によって成り立っています。それぞれが自らの地域や社会のために活動を続けています。個々の活動が重なり合い、効果的に力を発揮するための計画策定においては、目指す方向性を共有する地域のビジョン（到達点）が要となります。

ア 未来ビジョン

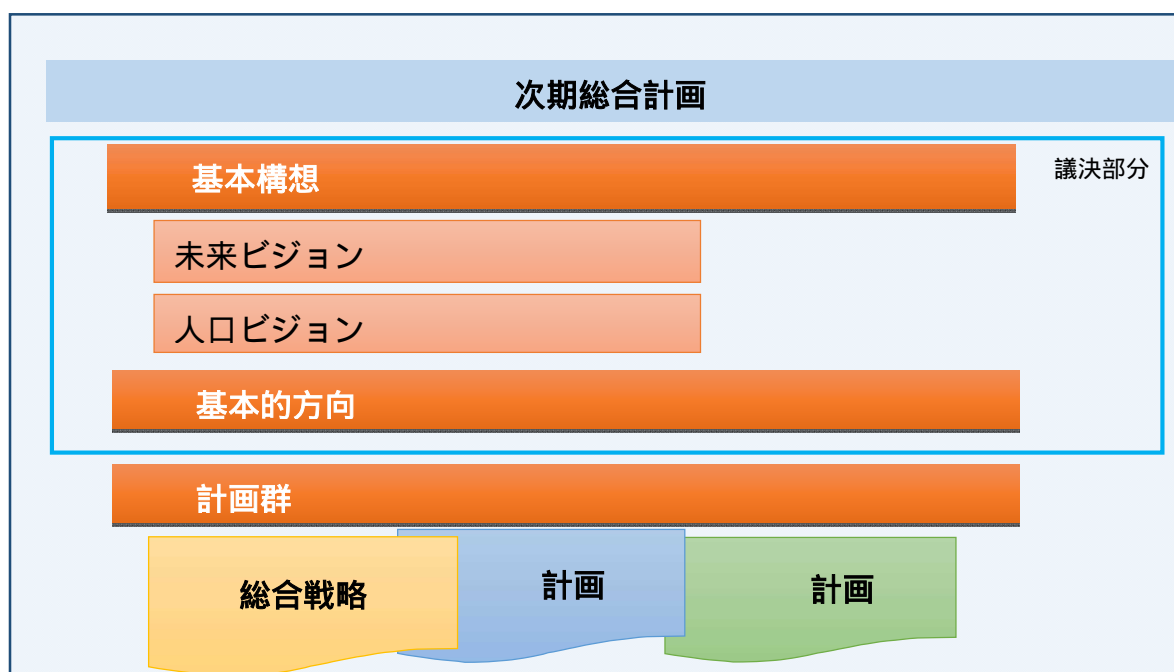
大目標として、実現したい「地域・暮らし」の将来像であって、30年先を見据えた中の12年後の到達可能な努力目標とします。

イ 人口ビジョン

未来ビジョンを支える人口規模であって、12年後の目標定住人口を軸に交流人口を含めた人口の将来展望とします。

ウ 基本的方向

ビジョン実現に向けた戦略であって、ビジョン実現までの道筋とします。



(3) 未来を描く「共創の場」による計画策定

飯田市では、これまでも地区での基本構想の策定や魅力ある地域づくりの実践、更には経済自立度向上や人材サイクルの構築に向けた取組、子育てしやすい環境づくりなどに多くの市民や事業所をはじめ多種多様な分野の皆さんが関わり、柔軟かつ効果的な発想や提案によって様々な成果をあげてきました。

今回の計画策定においては、こうした成果や経験を踏まえながら「地区」や「分野」ごとの更なる議論の積み重ねが地域づくりの原動力となり、「現場」から出される発想や提案が人口減少時代を乗り越えていく取組の原点になると考えています。

共創の場では、人口減少が地域に与える影響を議論の出発点としますが、実現したい地域の将来像を描き、その将来像（ビジョン）の実現に向けた取組を考えるうえで地域の可能性を広い視野をもって考える必要があります。人口減少時代の一方で進む人口流動化時代の流れ、

リニアや三遠南信自動車道といった特殊要因、そして人や財を惹きつける魅力づくりなどを検討することが重要となります。

ア 地区別懇談会

(ア) 概要

自治振興センター、公民館が主体となってまちづくり委員会の会合などにおいて、今回のテーマである「人口減少時代」について検討していただきます。人口減少への認識を高めていただくため、地区別の将来人口の推計とそれにより想定される地域社会、くらしの変化に関する資料などを提供します。それを踏まえ、地区の実現したい将来像について検討していただき、実現するための方策の検討をお願いします。

既に、多くの地域で地区基本構想や土地利用計画などの策定を通じて、地区の望ましい未来について検討をいただいています。また様々な活動が積極的に展開されていますので、そうした各地区の実情に合わせた取組をお願いします。

(イ) 具体的な内容

未来ビジョン、人口ビジョン、実現に向けた取組の基本的方向の発想の原点となる地区ごとの提案・意見を検討します。

(ウ) 検討の視点

地区の強みと弱みを熟知している地域の皆さんが、自らの生活スタイルを見つめ直して「人口減少時代においても、私たちの地区はこうありたい。次世代の人たちが幸せに暮らすために何が出来るのか。何をすべきなのか。地区間連携により補完できるものがあるか。」を検討いただきます。

- 例 [自然増]子育てをしやすい環境づくりの方策
[社会増]都市圏からの移住の方策
[交流人口増]来訪者を増やす方策

イ 分野別懇談会

(ア) 概要

分野別懇談会は、各分野における既存の審議会や分科会のほか、必要により開催します。開催に当たっては、人口減少、少子化、高齢化により想定される地域社会や各分野への影響に関する資料を提供し、それを踏まえ、各分野の実現したい将来像について検討していただき、実現へ向けた取組の検討をお願いします。

既に、産業、福祉、教育分野をはじめ、それぞれの分野で多くの検討や実践が展開されていますが、改めてこれまでの取組の再評価を行うとともに、これから重点的に取り組むべき課題の検討をお願いします。

(イ) 具体的な内容

分野別未来ビジョン、産業規模、担い手の展望、実現に向けた取組の基本的方向と事業を検討します。

(ウ) 検討の視点

各分野の実現したい将来像に視点を置き「人口減少問題を乗り越えていくためにどんな取組が出来るのか。他分野との連携や全市的に検討するものは何か。」を検討いただきます。

例 魅力ある「働く場」づくりとは

若い世代が帰ってこられる「働く場」づくりとは

女性が働きやすい(結婚～子育て)「環境」づくりとは

暮らしやすい地域に必要な仕組みづくりとは(介護はじめ各分野の担い手)

次代を担える人づくりとは(教育、文化)

ウ 未来デザイン会議(市民会議)

(ア) 概要

地区別・分野別懇談会での検討結果を踏まえ、飯田市としての「未来ビジョン」「人口ビジョン」「基本的方向」を策定します

(イ) 構成・性格

地区別・分野別懇談会からの代表者、公募、有識者で構成し、基本構想審議会の委員を兼ねます。

(ウ) 具体的な内容

市民インタビュー・アンケート等の企画、実施及び分析なども取り入れながら、地区別・分野別懇談会で検討された提案・意見等に基づく「未来ビジョン」「人口ビジョン」「基本的方向」を検討します。

エ 庁内組織・プロジェクト

(ア) 概要

庁内部署や若手職員によりプロジェクト組織を編成します。地区別・分野別懇談会において議論の材料となるデータ集を作成し、また運営手順などを準備するとともに、プロジェクトメンバーが懇談会の調整を担当する上で必要な能力を身につけるための研修を行います。

(イ) 具体的な任務

地区別・分野別懇談会で使用する論点データ集、運営手順の整備、各懇談会の調整、未来デザイン会議(市民会議)との連携による市民インタビュー・アンケート等の企画、実施及び分析、各段階における検討への参加と集約を行います。

3 策定スケジュール

<平成27年度>

市政懇談会 5月～7月

飯田市人口の現状として、人口動向分析、将来人口の推計と分析、人口の変化が地域の将来に与える影響について示すとともに、取組を進める上で重要となる課題と注意点(公共施設マネジメントなど)を各地区に説明し、認識を共有します。

地区別懇談会及び分野別懇談会

各懇談会は、それぞれの実情に合わせながら8月から10月末頃を目途に人口減少が地域に与える影響を議論の出発点として各地区・各分野の将来像やその実現方法について検討をします。

それぞれの検討結果を未来デザイン会議（市民会議）でまとめ、まとめたものについて、引き続き各懇談会で検討します。

未来デザイン会議（市民会議） 9月～3月

9月に組織を編成し、地区別・分野別懇談会での検討を踏まえた「飯田市未来ビジョン（原案）」「飯田市人口ビジョン（原案）」「飯田市版総合戦略」を3月末までに策定します。

<平成28年度>

市政懇談会 開催時期未定

平成27年度に策定する「飯田市未来ビジョン（原案）」「飯田市人口ビジョン（原案）」と、「飯田市版総合戦略」を説明、意見交換します。

未来デザイン会議（市民会議） 4月～12月

市民インタビュー、アンケート等の企画、実施及び分析を行い、その結果を踏まえて「次期総合計画（原案）」の策定を行います。

12月までには、基本構想審議会（附属機関）としての諮問・調査審議の手続を行います。

地区別・分野別懇談会

未来デザイン会議（市民会議）での検討を踏まえ、既存計画の見直しや新たな計画の立案を行います。

地域協議会、パブリックコメント（意見公募）

各地域協議会において「次期総合計画（原案）」の審議をお願いします。

また、広く市民の意見を公募するためパブリックコメントを行います。

市議会議決 12月

次期総合計画（案）の議案審議をお願いします。

4 地方創生に関わる「人口ビジョン」、「飯田市版総合戦略」の策定

国においては、地方創生の動きの中で、平成26年9月3日に「まち・ひと・しごと創生本部」が設置され、12月27日には、2060年に1億人程度の人口を維持する「長期ビジョン」と、これに向けての取組を掲げた「総合戦略」を閣議決定しました。

こうした国の「長期ビジョン」「総合戦略」を勘案しつつ、県・市町村においても「人口減少時代」に向けた「人口ビジョン」「地方版総合戦略」を平成27年度末までに策定することが求められています。

(1) 人口ビジョン

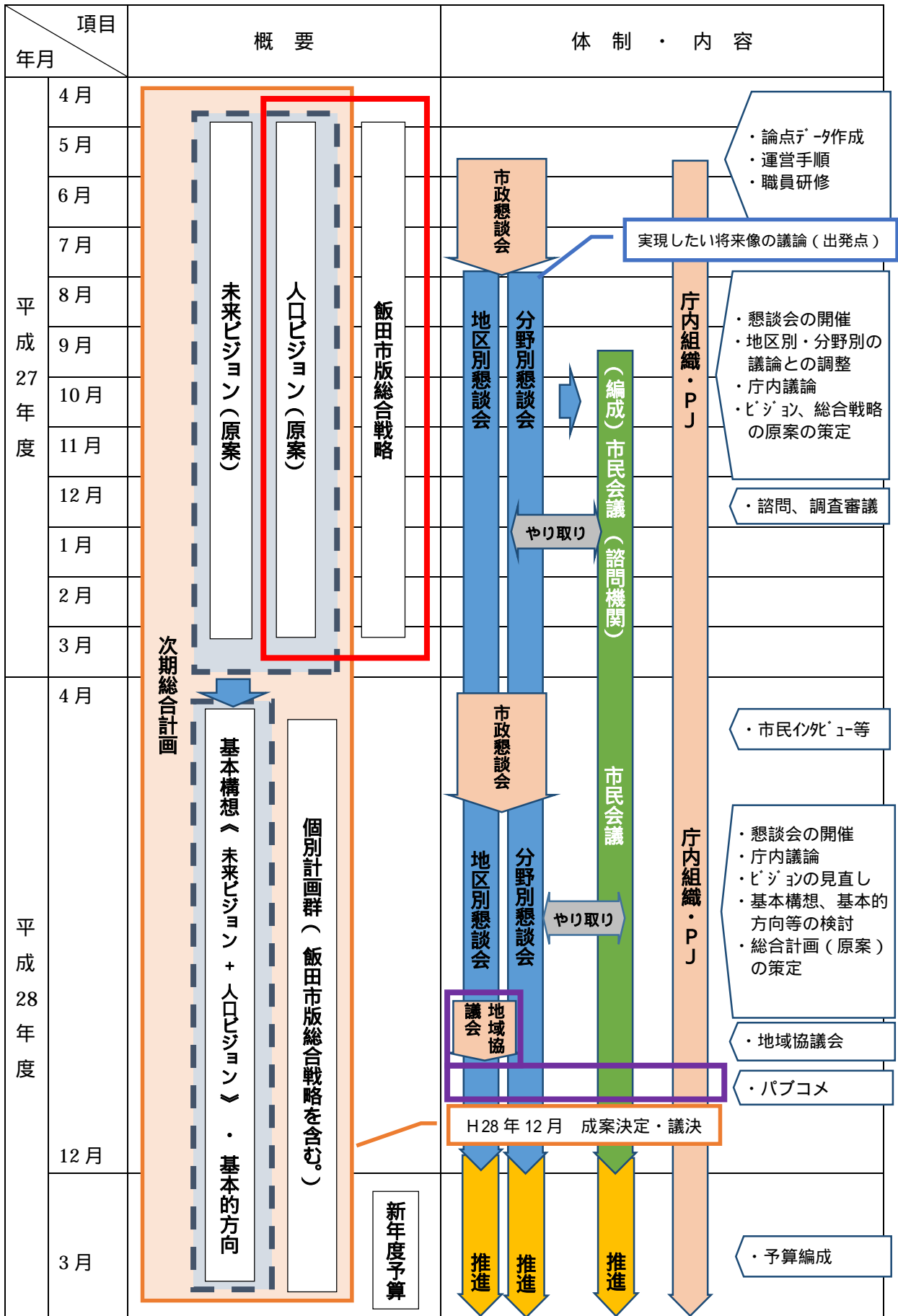
平成27年度末までに、次期総合計画の基本構想に位置づける「飯田市人口ビジョン（原案）」を策定します。これを、地方創生に関わる「人口ビジョン」に位置づけ、国へ報告します。平成28年度には、「飯田市人口ビジョン（原案）」についての見直しを検討する中で、必要により地方創生に関わる「人口ビジョン」についても見直し、改訂を行うこともあります。

(2) 地方版総合戦略

平成27年度末までに、「飯田市版総合戦略」を策定します。地区別・分野別懇談会、未来デザイン会議（市民会議）での検討を踏まえ、人口減少の克服、「まち・ひと・しごと創生」に向けて、これからの5か年（27～31年度）で重点的に取り組む施策を、飯田市の「地方版総合戦略」として策定します。なお、平成28年度には、次期総合計画と連動する個別計画群の見直しを行う中で、「飯田市版総合戦略」の見直しを検討します。

また、広域的に連携することにより効果を高められる広域連携事業については、広域連合、町村と連携をとりながら策定を進めます。

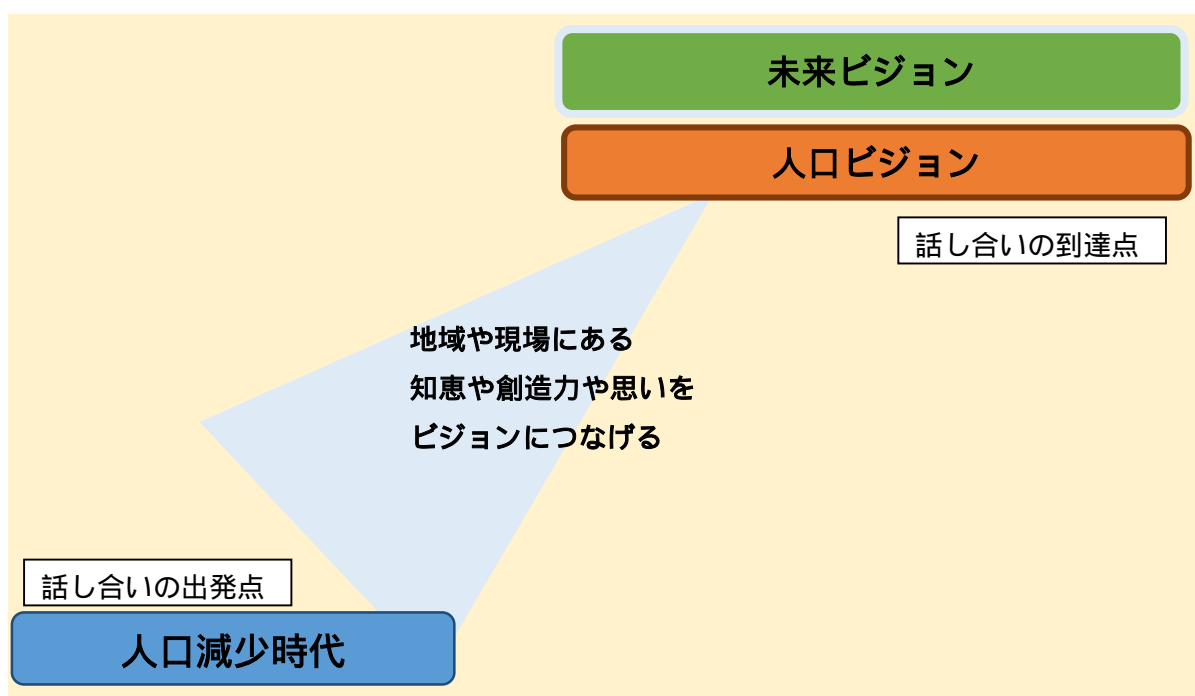
【日程表】



【補足資料】

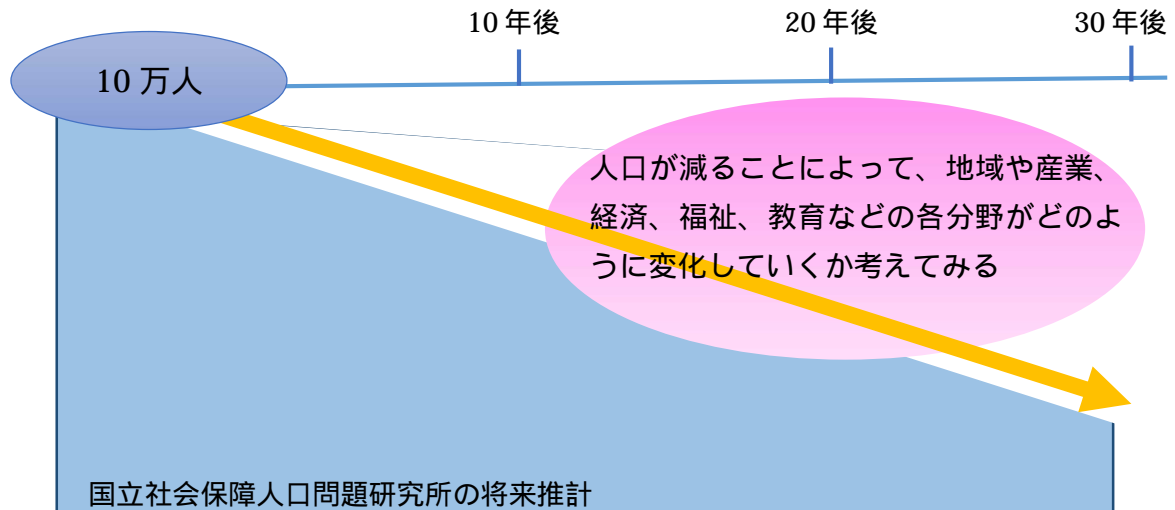
各懇談会での検討の進め方のイメージ

《未来を描く「共創の場」》



人口減少の「地域・暮らし」への影響を考える

- ・ 想定される人口減少により、くらしや経済などにどのような影響が現れるか考えてみます。
- ・ 人口減少を数字の変化と捉えるだけでなく、自分たちのくらしの場、活動の場に置き換えて考えてみます。



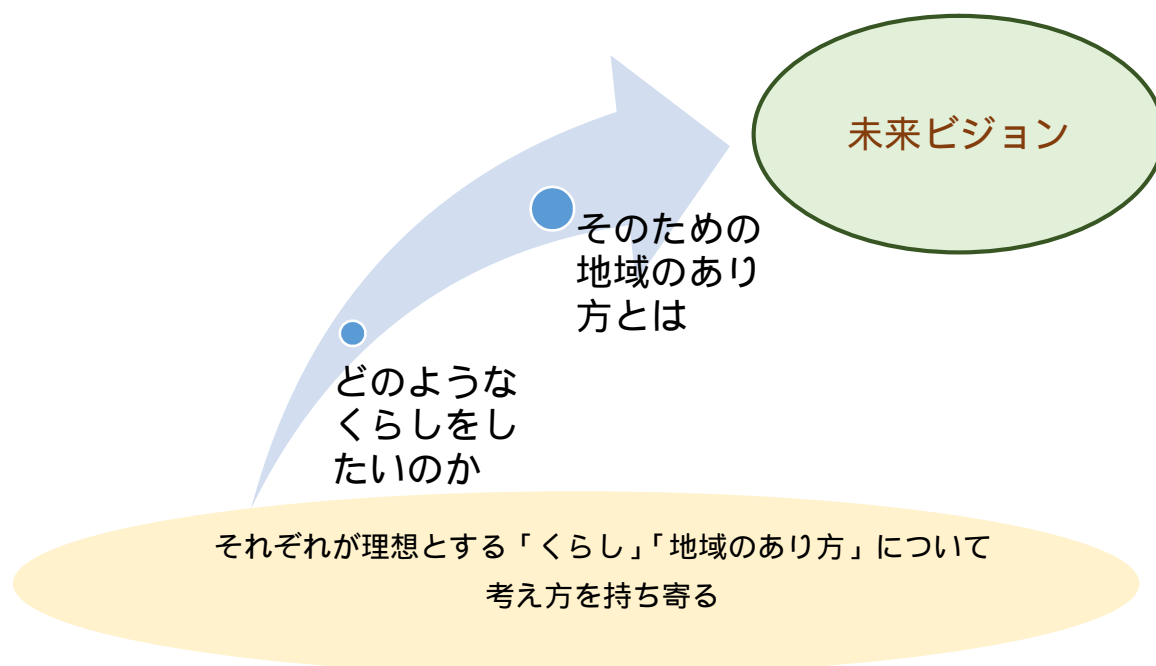
【ポイント】

人口が減少することによって、経済を含む地域社会全体が縮小していくことが懸念されます。それを具体的場面で考えると、これまでの私たちの暮らしを支えてきた様々な公的サービスや民間サービスが抜け落ちるようにその機能が地域から消えていくということを意味しているのではないのでしょうか。

- ・ 学校、保育園などは
- ・ 商店などは
- ・ 従業員、担い手、後継者などの人材は
- ・ 空き家や遊休農地は

実現したい「地域・暮らし」の将来像を考える

- ・想定される影響を踏まえ、「これだけは守りたい」「次の世代にこれだけはつなぎたい」「魅力的な就業の場、付加価値の高い産業集積を進めたい」など、実現したい地域の「暮らしの姿」「経済の姿」あるいは「地域の魅力」について考え「未来ビジョン」を検討します。
- ・また、その実現に向けた人口規模、産業など各分野の担い手や後継者についても検討します。



【ポイント】

- ・私たちの地域は、豊かな自然環境の中に伝統文化が息づき、りんご並木・ムトスに代表される自主自立の精神や、地域自治組織・公民館など地域自らが考え行動できるコミュニティが育ち、根付いています。
- ・未来へのシナリオを描く主人公は、私たち一人ひとりです。
- ・人口減少時代においても飯田の地を暮らしやすい満足度の高い地域としてどのように作り、引き継いでいくか、一人ひとりの思いを寄せあい、未来ビジョンにつなげます。

「地域・暮らし」の将来像を実現する「戦略(道筋)」を考える

() 地域にある可能性について

- ・人口流動化時代についても考えてみます。
- ・「リニア」や「三遠南信自動車道」の開通による特殊なシナリオ描ける地域であることを考えてみます。

人口減少時代

人口流動化時代

リニア・三遠南信自動車道

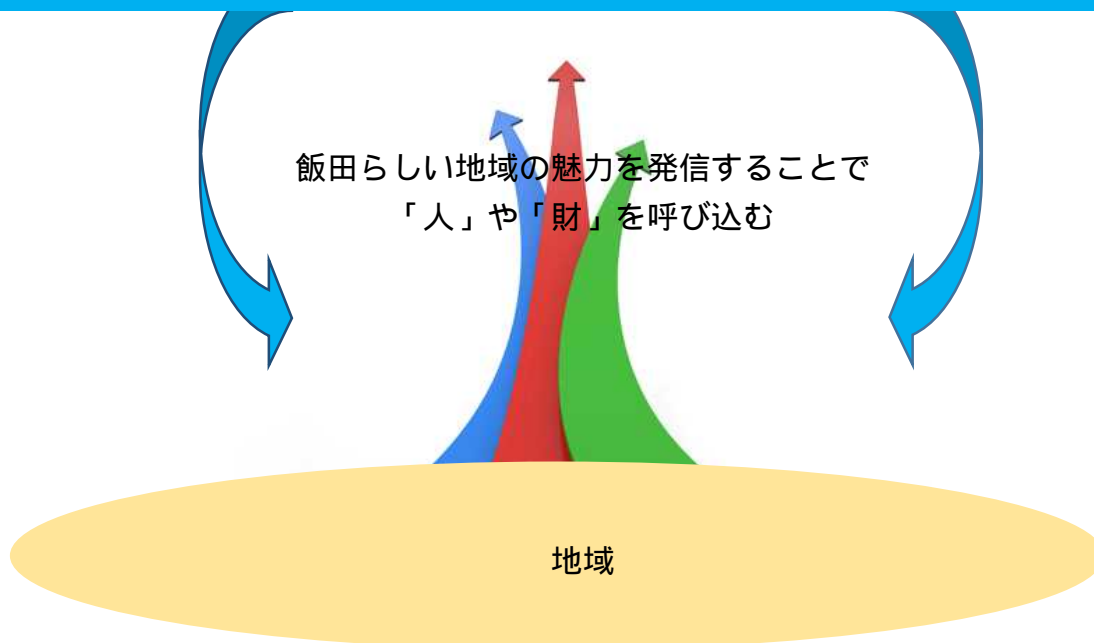
地域を支える人口規模
定住人口に加えて交流人口の視点

【ポイント】

- ・国全体を見れば人口減少時代の一方で、若者の中には田園回帰などの意識の変化がみられます。
- ・自分に合ったライフスタイルを求め、移住、二地域居住という考え方も進んでいます。
- ・今後ますます出張、観光などで人口の交流が加速する傾向も合わせて人口流動化時代となっています。
- ・飯田市が、様々な暮らし方を選択できる多様性のある地域や魅力的な就業の場として付加価値の高い産業などをつくっていくことによって、交流人口の増から、さらに人口の社会増を図り、長期的には自然増へつなげていくことが可能になります。
- ・飯田市はこれまでも子供を産み育てやすい環境づくりや人材サイクルの構築に重点的に取り組み、自然動態においては合計特殊出生率を改善させ、社会動態においても平成10年代半ばから減少幅を改善してきました。

- () 「リニア」や「三遠南信自動車道」を地域の力にしていくためには
- ・ 「リニア」や「三遠南信自動車道」のプラス効果を活かすための「魅力づくり」について考えてみます。

リニア・三遠南信自動車道の時代

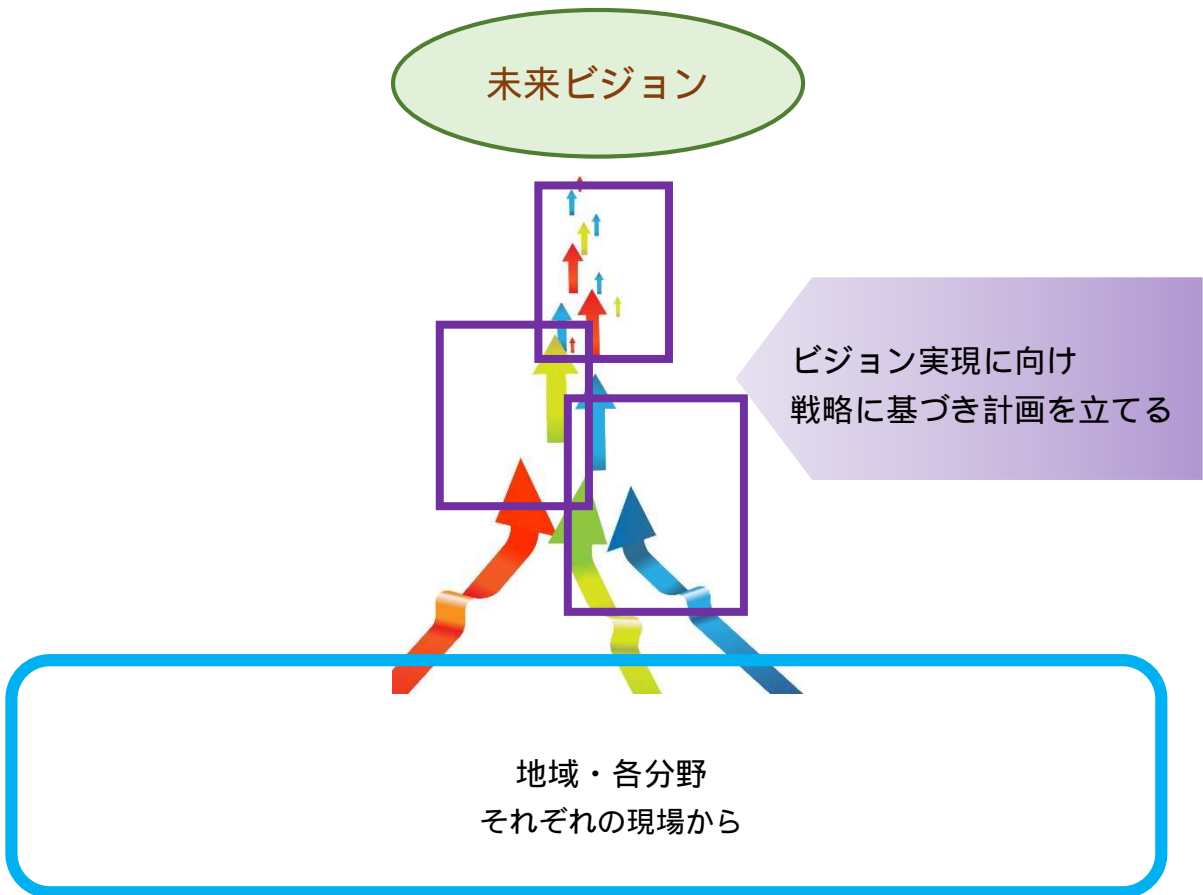


【ポイント】

- ・ 飯田市の魅力づくりとは、他にない個性をもつことによって、「人」や「財」を惹きつけていく「磁石」づくりでもあります。
- ・ これまでも当地域の特長として、この地域にしかないものを核に自らの創意工夫による地域づくりを続けてきました。これからの時代は物的資源、文化的資源、人的資源といった「地域の資源」の見直しと、活用への取組をさらに進める必要があります。
- ・ 地域固有の資源を維持可能な形で最大限に活用するには、地域資源のことを一番よく知る地域の人々が主体となって取り組むことが不可欠となります。
- ・ また、未だ地域に眠っている「潜在資源」の発見、活用やこれまでの地域資源の付加価値を高めるためには、当地域の先取の気質を継承するとともに、広域的な連携を積極的に展開し、大学などを含む外部からの多様な視点も積極的に取り入れていく必要があります。

戦略に基づく実践（計画）を考える

- ・これまでの取組を見直してみます。



【ポイント】

- ・戦略に基づき、優先すべき事業、重点化すべき事業を組み立てます。
- ・これからの時代は、これまでの考え方や手法では通用しない場面に多々直面することが予想されます。
- ・これからの計画は、社会環境や状況の変化に応じて柔軟に見直していく必要があります。